

新病院長就任 ごあいさつ



病院長 村上伸也

本年の4月1日より、前田芳信前病院長の後任として、本院の病院長を受け継ぎました村上伸也です。よろしくお願ひ申し上げます。

これからも、私たちの病院を信頼し来院していただく患者の皆様に対して、「安全で安心な治療が受けられる病院」「最新の治療が受けられる病院」「現在の科学的な根拠に基づいた治療が受けられる病院」であるよう、日々尽力してまいります。そして、これまで同様、本院を受診された方々が「大阪大学歯学部附属病院があっただけよかった」と思っただけの大きな目標の一つにしたいと思ひます。医療の安全を脅かすものに対しては「強く」、そして患者の皆様に対しては「優しい」病院であり続けられるよう、ご支援とご理解をお願いいたします。

これからの大阪大学歯学部附属病院の活動に引き続きご期待下さい。

内面

● 特集 1.

国際歯科医療センター、活動を始動
CGOH (Center for Global Oral Health)

● 特集 2. 近未来歯科医療センター

お口の相談コーナー
お口のマメ知識

裏面

● 2016年1～3月の統計情報

● 病院概要



国際歯科医療センターの目標

平成27年4月に「国際歯科医療センター」を新たに設置しました。このセンターは海外歯科医療機関との相互患者紹介、外国人歯科医師の多様な学習ニーズに応じた臨床研修の受け入れ、外国の歯科医療機関と共同で実施する国際共同治験および臨床研究の推進など、本院の目的をスムーズに達成することを目標としています。

2015年度の活動

①外国人患者さんへの対応整備

センター稼働後、入院手続き書類等、院内で使用している各種文書の英文化を推進いたしました。さらに、これまで現場の歯科医師や看護師が対応していた外国人患者さんとの連絡調整等についても本センターによるサポートを開始しました。

また、外国人患者さんへの対応を支援するために多言語(日本語・英語・韓国語・中国語)対応のアプリケーション(CGOHと名付け

ました)を制作しました。CGOHは各診療科の症例・治療計画・治療方法について、映像で説明できるポータブルの電子端末です。さらに対応言語を増やすこと



CGOH(外国人患者さん説明用多言語アプリケーション) 出力例

で多くの外国人患者さんが診療内容を理解しやすくなるように、これからも努力してまいります。

②国際シンポジウムの開催

2016年3月に国立台湾大学・台北医学大学・中山医学大学・中国医薬大学の4大学と合同シンポジウムを開催し、5大学共同の国際共同治験や臨床研究を推進するコンソーシアムを確立いたしました。また本院での臨床修練プログラムを充実させ、学習意欲の高い優秀な歯科医師の受け入れ・派遣を相互に行うとともに、

大阪大学歯学部附属病院の最先端医療技術の提供を行ってまいります。今後もこのような国際連携を推進し、患者さんが旅行や転勤で自国を離れた場合も速やかに現地で診療が受けられる体制を整備してまいります。

大阪大学歯学部附属病院が、日本のみならず世界の歯科医療拠点としての期待に答えるために、本院における国際化のミッションを全うすべく、スタッフ一同、努力してまいります。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



国立台湾大学・台北医学大学との合同シンポジウム

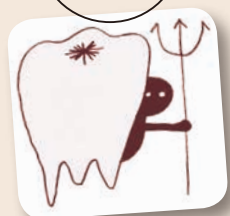


中国医薬大学との合同シンポジウム

「子どもに障害があり、歯の治療が苦手なのですが？」

障害者歯科治療部 秋山茂久

お口の相談
コーナー



その1

障害のある患者さまやご家族から「近くの歯科医院で診てもらえない」ということをよくお聞きします。当院では一般の歯科医院での対応が難しい、さまざまな障害のある方々を対象に障害者歯科治療部が歯科診療を行なっています。

知的な障害のある方では、歯科治療の重要性が理解できず、また過去のいやな経験から歯科治療をうまく受け入れられないことがあります。障害者歯科治療部では、まず診療室、スタッフ、器具や治療法について時間をかけて慣れてもらうことを中心に診療を進めています。時間はかかるかもしれませんが、信頼関係を構築することが口と歯の健康を守るためには大切であると考えています。治療の方法や順番を伝えるため

の絵や写真などを用いて、納得しながら治療を受け入れられるような配慮を行っています。

また知的障害が重度であったり、脳性麻痺などでじっとしていることが難しい方や、手足に麻痺があり治療中の姿勢を保つことが困難であったりする場合には、安全性のために、クッションやベルトなどを用いて、からだの動きをコントロールさせていただくこともあります。

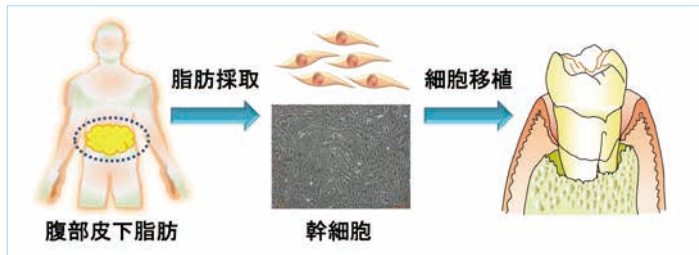
さまざまな対応を行っても歯科治療が困難な方には、歯科麻酔科の協力の下、鎮静や全身麻酔を行うことも可能です。知的な障害がなくても、歯科治療恐怖症や嘔吐反射の強い方にはそのような対応も可能です。

障害があってもなくても、食べることは非常に楽しいことであり、お口や歯の健康は問題があつてからではなく、日ごろから気にかけておくことが重要です。最近では日本障害者歯科学会の認定を受けた歯科医師も増えており、日本障害者歯科学会のホームページで検索もできます。歯科医師会が中心となった障害者歯科センターも多く開設されており、障害者の歯科保健も充実してきています。お近くの歯科医院で相談だけでもされることをお勧めします。



近未来歯科医療センター活動報告

口腔治療・歯周科 竹立 匡秀



私たちの病院の3階には、近未来歯科医療センターがあります。このセンターには、清潔な環境で、安全に外科手術を行う設備が整っており、インプラントや歯周外科手術、マイクロスコープを用いた手術などの外来手術が行われています。

また、まさに近未来を担う新しい治療法の研究開発もこのセンターで行っています。例えば、間葉系幹細胞と呼ばれる幹細胞を用いて歯周病で失われた骨や歯ぐきを再生させるという新しい治療法の開発に取り組んでいます。間葉系幹細胞とは脂肪、骨、軟骨や筋肉といった体の部分を作り出す様々な細胞へと変化する能力を持つ細胞です。現在実施中の臨床研究では、このセンター内で歯周病の患者さんご自身のおなかの皮下脂肪を数10ccほど吸引し、併設された細胞培

養施設において、採取した皮下脂肪の中に存在する間葉系幹細胞を取り出し、1~2か月間培養します。このようにして施設内で増やした幹細胞を、歯周病で失われた骨の欠損部分に移植することによって、歯を支える組織を再生させるという治療方法です。院内にこのような施設を持つ歯科病院は、国内において他に例がありません。この治療法の安全性と効果を臨床研究を通じて明らかにすることで、多くの患者さんに提供できる近未来型の歯科再生療法の開発を目指しています。



細胞培養施設

お口の
マメ知識



マウスピースって ひとつじゃないの!?

口腔補綴科 石垣 尚一

ことがあります。このような為害性のある力から歯や歯周組織を保護するために、前述の「スタビリゼーション・スプリント」や「ナイトガード」というマウスピースを用いて治療します。ナイトガードは、被せもの(クラウン・ブリッジ)やインプラントの保護にも用いられます。

③ 睡眠時無呼吸症候群の治療

この病気は、中枢型と閉塞型に大きく分けられますが、歯科治療の対象となるのは、舌根などが気道をふさいでしまう閉塞型の睡眠時無呼吸症候群と医科で診断された患者さんです。「オーラルアプライアンス」というマウスピースを用いて治療します。

④ スポーツ外傷の予防

ラグビーやアメリカンフットボールなどのコンタクトスポーツの際に、歯や口の中の外傷を予防したり、頭頸部に加わる衝撃を和らげたりするために、「マウスガード」というマウスピースを用います。このように治療目的によって用いられるマウスピースはさまざまです。それぞれ専門の診療科・部がありますので、初診の方は予診室で、受診中の方は担当医にご相談いただければ、適切な診療科・部に紹介させていただきます。

歯科医師「こんにちは。今日はどうされましたか?」

患者さん「マウスピースを作ってもらいたくて来院しました。」

このような会話を私たちはよく経験しますが、マウスピースには使用目的によっていろいろな種類があります。そこで、診療科・部の垣根を越えて代表的なものをご紹介します。

① 顎関節症の治療

顎関節症は、顎の周囲の痛み、口が開けられない、顎から音がするなどの症状を特徴とする病気です。他の治療とあわせて、必要な場合には「スタビリゼーション・スプリント」というマウスピースを用いて治療します(写真)。



② 歯ぎしりの治療

歯ぎしりや食いしばりによって、歯や歯を支える顎の骨に強い力がかかると、歯がすり減ったり、歯周病への悪影響を及ぼしたりする

お口の相談
コーナー

子どもにも入れ歯はあるのでしょうか?

小児歯科 大川 玲奈



その2

子どもの歯は下あごの前歯から通常6歳前後で抜けはじめて、順次大人の歯に生え変わっていきます。その後、12歳頃まで子どもの歯から大人の歯への生え変わりが続きます。しかし、歯のけがによって、本来の生え変わりの時期よりも早い時期に子どもの歯が抜けてしまったり、歯を抜かなければならなくなったりする場合があります。

子どもの歯が早くに抜けてしまった場合、そのまま放置していると、見た目が悪だけでなく、食事がしにくかったり、発音に影響が出る場合があります。また、歯が抜けた場所に舌を入れてから飲み込む癖がついてしまい、その後の歯並びにも影響することも考えられます。さらに、子どもの歯の最も

大切な役割である「大人の歯が生えてくるためのスペースの確保」が難しくなり、大人の歯が生える際に問題になる可能性があります。

そのような子どもたちには、「子どもの入れ歯」を入れるようにお勧めしています。入れ歯を入れることができるようになる時期は、歯型が上手に取れるようになる3歳から4歳頃が目安となります。入れ歯を入れ始めてから

は、大人の歯が生えてくるまで定期的なチェックが必要です。顎の骨の成長を妨げないような設計にはしていますが、成長発育に応じて、調整や作り変えが必要となることがあります。

歯のけがによって子どもの歯が抜けてしまった場合の入れ歯は、平成26年度より保険が適用されるようになりました。詳しくは、小児歯科担当医にご相談ください。

入れ歯を入れる前



歯がないスペース(矢印)に隣の歯が傾きます

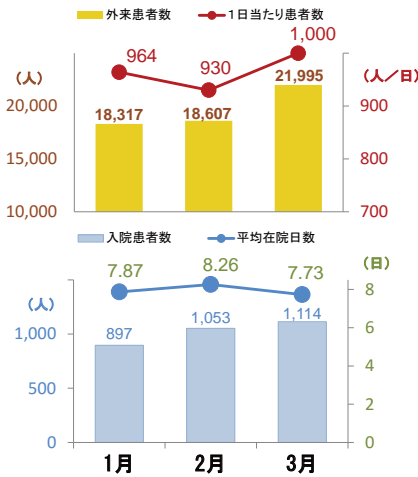
入れ歯を入れた状態



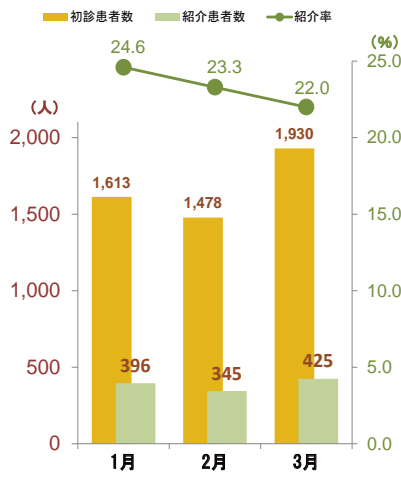
子どもの入れ歯の例

1月～3月患者数等統計

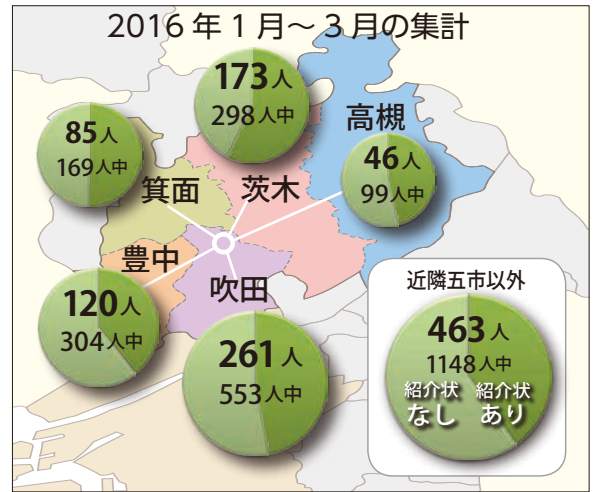
外来患者数・入院患者数



初診患者数と紹介患者数比率

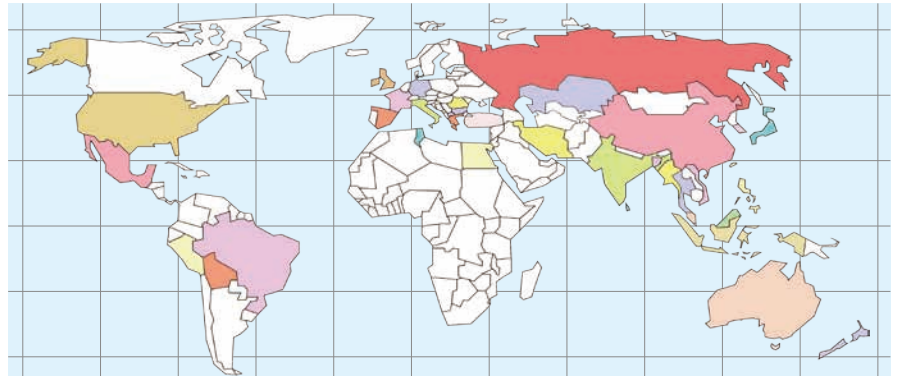
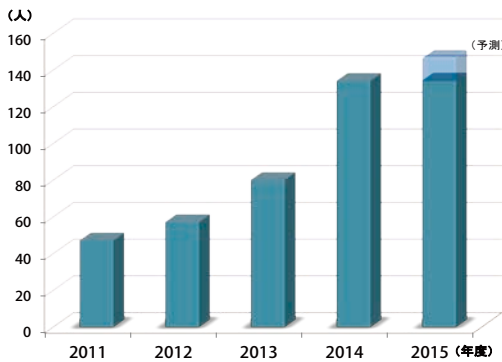


近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



外国籍の患者さんの来院数 (外来) と主な国籍の分布図

【主な国名】…中華人民共和国、インド、インドネシア、タイ、韓国、フィリピン、マレーシア、ロシア、アメリカ合衆国、トルコ、イギリス、スペイン等



◆抽出条件◆2011年度から2016年2月29日までに大阪大学歯学部附属病院を受診した外国籍の外来患者さんの人数を集計しました。

病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）

【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえお越しください。

入院患者さんへのご面会時間は、12時から19時となっております。

病院へのアクセス

http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital_000009.html

歯学部附属病院にお車で越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。なお、平日夜10時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越しください。

看護師募集中！

—お問合せ—
歯学研究科総務課人事係
06-6879-2834 まで